

2017年11月24日号

リスクフラッシュ 261号(第8巻 第7号)



Risk Flash No.261 (Vol.8 No.7)

発行：滋賀大学経済学部附属リスク研究センター
発行責任者：リスク研究センター長 吉田裕司

- 平成29年度 第8回リスク研究センター主催セミナー
(鶴岡 昌徳氏・横浜国立大学大学院国際社会科学研究院)：石井利江子・・・Page 1-2
- 第6回 English Lunch Seminar (経済学部 藤井将希・森一平・大岩和人)・・・Page 3
- 第1回リスク研究センター主催国際シンポジウム開催しました・・・Page 3
- リスク研究ワークショップ第1回(2017年度)のお知らせ・・・Page 4
- 次回リスク研究センター主催セミナーのお知らせ・・・Page 5

平成29年度 第8回リスク研究センター主催セミナー (鶴岡 昌徳氏・横浜国立大学大学院国際社会科学研究院)

リスク研究センター ミクロ経済学研究セミナー

日 時：平成29年10月19日(木) 16:10~17:10

会 場：滋賀大学 彦根キャンパス セミナー室 I (土魂商才館 3F)

演 題：『Assessing the Inefficiency Caused by the Hold-up Problem in Public-works Procurement
—公共工事の市場におけるホールドアップ問題によって発生する非効率の評価—』

講 師：鶴岡 昌徳氏 (横浜国立大学大学院国際社会科学研究院 准教授)

【講演概要】

報告者の鶴岡昌徳氏は、実証産業組織論分野における新進気鋭の若手研究者です。これまでの研究は一貫して、公共入札やその後の公共工事において発生する諸問題の分析であり、大阪大学社会経済研究所森口賞入選など、若手研究者を対象とする賞を複数受賞しております。



今回のセミナーで報告された研究「Assessing inefficiency caused by the hold-up problem in public-works procurement」は、公共工事を受注する業者が品質を選択する際に生じる非効率性を分析した大変興味深い研究です。

公共工事では、工事内容に変更が生じたり工事が想定以上に困難であったりした場合、最終的な工事金額が修正されることがあり、その追加的支払額は受注者と発注者の間の交渉によって決定されます。今回の鶴岡氏の研究は、その交渉の際、発注者と受注者は品質に関して完備契約を結ぶことが出来ず、社会的に望ましい品質の工事が納品されないという問題に着目しました。



分析においては、発注者と受注者の間の交渉、その後の受注者の品質選択、および発注者によるオークションの設計等の行動がモデル化され、その均衡を特徴付ける式に実際の工事品質等のデータを当てはめていくことによって、モデルの構成要素となるパラメータが推定されています。

さらに、推定されたパラメータを元に、もし上述の問題が生じていなければどの程度の品質が達成されていたかを試算し、品質の低下と社会厚生への損失の度合いを割り出しています。鶴岡氏の試算によると、国の発注する公共工事においては、上述の問題によって約35%の品質低下が生じ、それによって社会厚生が26%損なわれているとのこと。このア

プローチは、「現実とは異なる仮想的な状況を描く」という意味で counter factual と呼ばれています。



このような形で仮想的な状況と現実を比較分析することは非常に説得力があり、理論モデルとマイクロデータの絶妙な合わせ技である構造推定の大きな利点であると、筆者は改めて認識した次第です。公共工事の金額修正と品質に着目した分析、しかもナッシュ交渉解

をベースとした構造推定は非常に新鮮で、後日、何度も頭の中でモデルを反芻するほどでした。大いに刺激を受けたセミナーとなりました。

(文責 経済学科准教授 石井 利江子)

第6回 English Lunch Seminar (経済学部 藤井将希・森一平・大岩和人)



平成29年11月9日(木)、第6回リスク研究センター主催English Lunch Seminarを開催致しました。本セミナーは、発表者と参加者が全て英語でディスカッションを行うことを目的としています。

今回のEnglish Lunch Seminarでは、学生3名(野瀬昌彦ゼミ)に夏休みのパプアニューギニアへの現地調査について英語での報告をしてもらいました。報告者は、経済学部の藤井将希氏、森一平氏、

大岩和人氏でした。パプアニューギニアでは、言語の数は800近くあるとも言われ、そのため英語が国内での公用語とされています。また、英語言語の影響もあるトク・ビジン言語も共通語として使用されています。今回の現地調査では、学生達が現地の人にインタビューを行う際には、英語とトク・ビジンを用いたと聞いて、とても驚きまた感心もいたしました。彼らの報告で参加者全員が学んだことが一つあります。「ミー、ライク、ユー」がトク・ビジン言語の「I like you」だそうです。

次回のEnglish Lunch Seminarの日程はただいま調整中です。決定次第、リスク研究センターHPにてお知らせいたします。学内の教員・学生の方ならどなたでも参加可能です。

第1回リスク研究センター主催国際シンポジウム開催しました



2017年11月18日(土)、第1回リスク研究センター主催国際シンポジウム(The 1st International Conference on Risk in Economics and Society, Shiga University)が無事に執り行われました。国内外より総勢35名の研究者並びに学生が参加し、熱い議論を交わしました。詳細のご報告は次号に掲載いたします。

リスク研究ワークショップ第1回(2017年度)のお知らせ

平成29年11月30日(木)、リスク研究センターではリスク研究ワークショップ第1回(2017年度)を開催予定です。プログラム詳細は下記をご参照ください。

日 時：平成29年11月30日(木) 14:30～17:40
会 場：滋賀大学 彦根キャンパス セミナー室Ⅰ (土魂商才館 3F)

◆第1回 2017年11月30日

時間	発表内容	発表者
14:30-14:35 (5分)	開会のあいさつ	
14:35-15:05 (30分)	消費税軽減税率制度の導入について	吉田雅彦(福井県立大学大学院)
15:05-15:35 (30分)	新興国発の事業革新における関心事と解釈の変化 —エプソン「インクタンク」導入事例から—	松井義司(名古屋市立大学大学院)
15:35-15:45 (10分)	【休憩】	
15:45-16:15 (30分)	産業転換と空間的産業集積・分散に関する理論的・実証的研究	王驥(立命館大学大学院)
16:15-16:45 (30分)	アナリストによる株価予想のばらつきを用いた不確実性プレミアムの実証分析	坂本淳(大阪大学大学院)
16:45-16:55 (10分)	【休憩】	
16:55-17:25 (30分)	グローバル・キャッシュ・マネジメント・システム(GCMS)のメカニズムと運用課題	福嶋幸太郎(京都大学大学院)
17:25-17:40 (15分)	総評	

◆学内・学外を問わず聴講者を歓迎します。聴講ご希望の方は、下記HP内の申込フォームをご利用ください。

<https://www.econ.shiga-u.ac.jp/risk/10/2/5/14/ws01.html>

※リスク研ワークショップ第2回(2017年度)は平成30年2月8日(木)開催予定です。



次回リスク研究センター主催セミナーのお知らせ

平成 29 年 12 月 14 日(木)、リスク研究センターでは東北大学 学際科学フロンティア研究所より、田村 光平助教をお迎えして、平成 29 年度 第 9 回リスク研究センター主催 人類学研究セミナーを開催する予定です。

日 時：平成 29 年 12 月 14 日(木) 16:10~17:10

会 場：滋賀大学 彦根キャンパス セミナー室 I (土魂商才館 3F)

演 題：『文化進化研究の展開：文化多様性の定量化と形成プロセスの復元』

講 師：田村 光平氏 (東北大学 学際科学フロンティア研究所 助教)

◆学内・学外を問わず参加を歓迎します。参加ご希望の方は、下記 HP 内の申込フォームをご利用ください。

<https://www.econ.shiga-u.ac.jp/risk/10/2/5/14/20171214.html>

平成 29 年度第 9 回

リスク研究センター主催 人類学セミナー 「文化進化研究の展開：文化多様性の定量化と 形成プロセスの復元」

滋賀大学リスク研究センターが提供する研究セミナーの平成 29 年度第 9 弾は、東北大学学際科学フロンティア研究所より、田村光平助教をお招きして、「文化進化研究の展開：文化多様性の定量化と形成プロセスの復元」と題した人類学セミナーを行います。

講師：田村 光平 氏(東北大学学際科学フロンティア研究所 助教)

《講師紹介》

2012-2013 年 日本学術振興会特別研究員(DC2)

2013 年 東京大学大学院理学系研究科 博士課程 修了

2013-2014 年 日本学術振興会特別研究員(PD)

2014-2015 年 CREST 特任研究員

2015-2016 年 Research Assistant in Networks Related to Evolutionary Anthropology,
University of Bristol

2016- 東北大学学際科学フロンティア研究所 助教

◆ 主な研究の御実績 ◆

- (1) Tamura, K., Ihara, Y. (2011). Classes of communication and the conditions for their evolution. *Theoretical Population Biology*, 79, 174-183.
- (2) Tamura, K., Morita, R. C., Ihara, Y. (2011). Evolution of egalitarian punishment. *Letters on Evolutionary Behavioral Science*, 2, 20-23.
- (3) Tamura, K., Ihara, Y. (2012). Evolution of social learning in lattice-structured populations. *Letters on Evolutionary Behavioral Science*, 3, 25-29.
- (4) Tamura, K. (2014). Homogamy for birthplaces and cultural diversity. *Letters on Evolutionary Behavioral Science*, 5, 1-4.
- (5) Tamura, K., Kobayashi, Y., Ihara, Y. (2015). Evolution of individual versus social learning on social networks. *Journal of the Royal Society Interface*, 12, 20141285.
- (6) Tamura, K., Masuda, N. (2015). Win-stay lose-shift strategy in formation changes in football. *EPJ Data Science*, 4, 9.
- (7) Nakao, H., Tamura, K., Arimatsu, Y., Nakagawa, T., Matsumoto, N., Matsugi, T. (2016). Violence in the prehistoric period of Japan: the spatiotemporal pattern of skeletal evidence for violence in the Jomon period. *Biology Letters*, 12, 20160028.
- (8) Tamura, K., Ihara, Y. (2017). Quantifying cultural macro-evolution: A case study of the Hinoecuma fertility dron. *Evolution and Human Behavior*, 38, 117-124.

◇日時◇ 平成 29 年 12 月 14 日(木) 16:10~17:10

◇会場◇ 滋賀大学彦根キャンパス セミナー室 I (土魂商才館 3F)

◇申込◇ リスク研 HP→セミナー講演会一覧よりお申込み下さい

主催：滋賀大学経済学部附属リスク研究センター

「リスクフラッシュご利用上の注意事項」

本規約は、滋賀大学経済学部附属リスク研究センター（以下、リスク研究センター）が配信する週刊情報誌「リスクフラッシュ」を購読希望される方および購読登録を行った方に適用されるものとします。

【サービスの提供】

1. 本サービスのご利用は無料ですが、ご利用に際しての通信料等は登録者のご負担となります。
2. 登録、登録の変更、配信停止はご自身で行ってください。

【サービスの変更・中止・登録削除】

1. 本サービスは、リスク研究センターの都合により登録者への通知なしに内容の変更・中止、運用の変更や中止を行うことがあります。
2. 電子メールを配信した際、メールアドレスに誤りがある、メールボックスの容量一杯になっている、登録アドレスが認識できない等の状況にあった場合は、リスク研究センターの判断により、登録者への通知なしに登録を削除できるものとします。

【個人情報等】

1. 滋賀大学では、独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律（平成15年5月30日法律第59号）に基づき、「国立大学法人滋賀大学個人情報保護規則」を定め、滋賀大学が保有する個人情報の適正な取扱いを行うための措置を講じています。
2. 本サービスのアクセス情報などを統計的に処理して公表することがあります。

【免責事項】

1. 配信メールが回線上的問題（メールの遅延、消失）等によりお手元に届かなかった場合の再送はいたしません。
2. 登録者が当該の週刊情報誌で得た情報に基づいて被ったいかなる損害については、一切の責任を登録者が負うものとします。
3. リスク研究センターは、登録者が本注意事項に違反した場合、あるいはその恐れがあると判断した場合、登録者へ事前に通告・催告することなく、ただちに登録者の本サービスの利用を終了させることができるものとします。

【著作権】

1. 本週刊情報誌の全文を転送される場合は、許可は不要です。一部を転載・配信、或いは修正・改変してblog等への掲載を希望される方は、事前に下記へお問い合わせください。

*尚、最新の本注意事項はリスク研究センターのホームページに掲載いたしますので、随時ご確認願います。

(<https://www.econ.shiga-u.ac.jp/risk/10/2/3/12.html>)

発行：滋賀大学経済学部 附属リスク研究センター

編集委員：吉田裕司、金秉基、石井利江子、近藤豊将、佐野洋史、
竹村幸祐、藤井孝之、森宏一郎

事務補佐員：山崎真理、萩原多恵子

滋賀大学経済学部附属リスク研究センター事務局（Office Hours:月一金 13:00-17:00）

〒522-8522 滋賀県彦根市馬場1-1-1 TEL:0749-27-1404 FAX:0749-27-1189

e-mail: risk@biwako.shiga-u.ac.jp

Web page : <https://www.econ.shiga-u.ac.jp/risk/>